# つがる総合病院（平成26年4月1日開院予定）からのお知らせ

## つがる総合病院開院までの主なスケジュール

病院の移転に伴い、ご迷惑をおかけいたしますが、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

| | |
|---|---|
| 西北中央病院<br>外来休診 | 平成26年３月28日（金）～ 平成26年３月31日（月）<br>※診療科によっては、担当医師の都合により休診期間が異なる場合があります。<br>事前に西北中央病院へご確認ください。 |
| 西北中央病院<br>入院患者移送 | 平成26年３月31日（月） |
| つがる総合病院 | 開院・診療開始　平成26年４月１日（火）<br>受付時間　　午前７時 ～ 午前11時<br>診療時間　　午前８時30分 ～ |

## 救急外来･救急車搬入・手術

| | |
|---|---|
| 西北中央病院で<br>受け入れ | 平成26年３月31日（月）午前８時15分まで |
| つがる総合病院で<br>受け入れ | 平成26年３月31日（月）午前８時15分から |

※救急車搬入および手術は、3月下旬～4月初旬まで一部制限させていただく予定となっております。

## 住民一般内覧会（見学会）

開院前につがる総合病院をご覧いただくための内覧会（見学会）を２日間開催します。
どなたでも見学できますのでお気軽にお越しください。

開催日時：平成26年３月21日（金）、３月22日（土）
　　午前10時～午後３時

**＜参加を希望される方へ＞**

- 申し込みは不要です。内履きをご持参のうえ、「つがる総合病院」へお越しください。
- 自家用車をご利用の方は、五所川原市役所一般駐車場をご利用くださるようお願いいたします。

**【問い合わせ先】つがる西北五広域連合　西北中央病院　管理課　電話35-3111（内線402）**

# 災害に備え決意新たに

## つがる市消防団出初め式

規律厳正な視閲点検で観閲者の福島市長から服装の点検を受ける消防団員

訓示を述べ敬礼する箱田団長

勇壮な分列行進を披露

消防車両のパレード

感謝状を受け取る前稲垣地区団長の尾野一文さん

**つがる市内の火災発生件数**

| | 建物 | 林野 | 車両 | その他 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 平成21年 | 13 | 3 | 2 | 35 | 53 |
| 平成22年 | 14 | 1 | 2 | 15 | 32 |
| 平成23年 | 11 | 1 | 1 | 17 | 30 |
| 平成24年 | 11 | 7 | 1 | 13 | 32 |
| 平成25年 | 15 | 2 | 4 | 1 | 22 |

新春の恒例行事である「つがる市消防団出初め式」が1月5日、56分団約1000人、消防車両56台が参加して松の館駐車場などで開催され、火災のない安心・安全のまちづくりに決意を新たにしました。

出初め式では、各地区の消防団員が観閲者の福島市長から服装の点検を受けた後、市役所前の道路を力強く分列行進しました。

その後、松の館で式典が行われ、福島市長が「昨年9月の台風18号では、農作物への甚大な被害が発生したものの人的被害はなく、消防署員、団員による日頃の献身的な防火・防災活動の成果であると感謝します。今後も市民が安全で安心して暮らせるよう一層の尽力をお願いします」と式辞。箱田鐵雄団長が「日頃から予防消防や訓練に努め、災害現場で迅速な活動が実践できるようにしっかり準備をしておくことが重要。消防団員数の減少が全国的な問題となるなか、つがる市も消防団員の減少に歯止めをかける年にしたい」と訓示を述べました。また、30年以上の永きにわたり消防団活動に貢献して勇退した団員に感謝状が手渡され、万歳三唱で出初め式を祝いました。

## 新しい年の門出を祝う

平成26年新年を迎え、「つがる市新年祝賀会」が1月6日、市民ら約200人が出席して松の館で開催されました。

福島市長は年頭のあいさつで「農政の根本政策である生産調整廃止という政策転換が決定しており、市では、足腰の強い農家の育成と耕作面積の少ない小規模農家でも耕作意欲を持ち続けられるような施策を国、県に求め続けていきます。私たちの住むつがる市の豊かな自然や文化・歴史を守り、次世代につなげるまちづくりに向け、全力で取り組みます」と述べました。

祝賀会には多くの来賓も出席し、祝辞の後、宮本純一商工会長の発声で乾杯を行い、出席者は新年のあいさつを交わしながら新しい年の門出を祝いました。

年頭のあいさつを述べる福島市長

徳永本部長（左）から表彰状を受け取った花岡会長（中）

## 交通死亡事故ゼロ250日達成

市では、平成25年12月22日、交通死亡事故皆無250日を達成し、つがる市交通安全対策協議会（会長・福島市長）と市交通安全母の会連合会（花岡トキ会長）が12月24日、県警本部で表彰を受けました。

表彰式では、徳永崇本部長が表彰状と感謝状を手渡し、「交通量も多く大変だと思いますが、事故ゼロをさらに延ばしていってもらいたい」と激励。花岡会長は「高齢者の事故防止に重点を置き、反射材の普及に力を注いできました。これからも各団体と協力しながら市ぐるみで交通安全運動に取り組み、死亡事故ゼロ500日を目標に頑張りたい」と抱負を話していました。

## 今年一年の交通安全を祈願

つがる地区交通安全協会（桜庭修会長）は1月4日、三新田神社で平成26年交通安全祈願祭を行い、交通事故のない安全なまちづくりに決意を新たにしました。

祈願祭には福島市長、上田修つがる警察署長をはじめ、つがる地区安全運転管理事業主会、安全運転管理者協会、市交通安全母の会連合会、地区交通指導隊などの代表者ら約20人が出席。参加者は祝詞奏上の後、玉串を捧げ、今年一年の無事故を祈願し、最後に桜庭会長が「昨年は交通死亡事故ゼロが484日でストップしてしまったが、現在250日以上継続中です。引き続き記録を伸ばせるよう力を合わせて活動に取り組んでいきましょう」と呼び掛けました。

玉串を捧げ交通安全を祈願する出席者

家族らから祝福される長内さん（左から2人目）

## 長内カナさん、乳井利右衛門さん 100歳長寿祝う

長内カナさん（木造）が、1月13日、満100歳の誕生日を迎え、15日、入所している特別養護老人ホーム柏風園で長寿を祝いました。

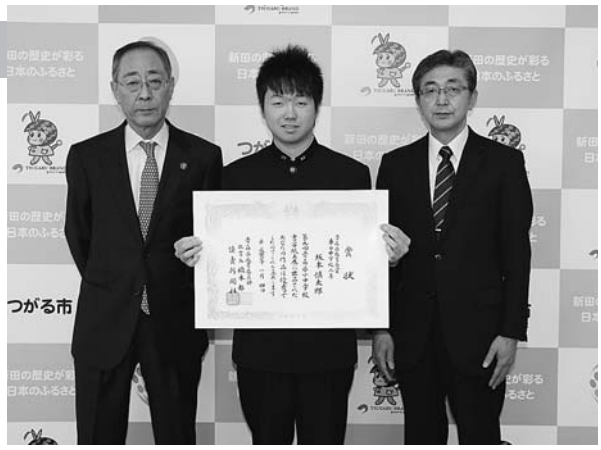
長内さんは大正３年生まれ。夫の慶助さんと農業を営み、子6人、孫14人、ひ孫17人、玄孫3人に恵まれました。

この日は、同園で祝う会が行われ、境福祉部長が顕彰状と花束を手渡すと、お祝いに駆け付けた孫の孝雄さんが「ありがとうございます。これからも長生きしてほしいと思っています。今後ともよろしくお願いします」とお礼を述べました。

また、12月24日には、乳井利右衛門さん（木造）が満100歳の誕生日を迎え、入院している尾野病院で顕彰状が贈られました。

## 坂本慎太郎君が県小中学校書写紙上展で最高賞受賞

第9回青森県小中学校書写紙上展（読売新聞社主催）で坂本慎太郎君（車力中２年）が最高賞の県教育長賞を受賞し、1月9日、福島市長に報告しました。坂本君の作品は、県内127校、75書塾から応募された計5995点の中から頂点に輝きました。聖山書道教室（木造）の工藤武彦氏から週１回指導を受け、自宅で毎日練習に励んだという坂本君は「うれしいです。少し崩し字にして力強さを表現することができました」と報告し、「書道を通して集中力がつき、勉強にも役立っています。毛筆は太さや墨の濃淡でさまざまな表現ができるところがおもしろいです」と書道の魅力について話しました。



県教育長賞を受賞した坂本君

力を合わせて雪だるまを作る子どもたち

## 寒さに負けず雪遊び

1月11日、稲垣体育センター横の広場で雪上運動会・雪だるまコンテストが開催され、市内小学生13人が雪の上でのゲームや雪だるま作りを楽しみました。これは子どもたちに、雪に親しみ冬を楽しんでもらおうと市体育協会（成田昭司会長）が主催。児童たちは歓声を上げながら雪合戦や宝探しなどの競技を楽しみました。雪だるまコンテストでは、４チームに分かれ、集めた雪に水をかけながら形を作り、松ぼっくりや木の枝で顔や腕を付け、出来栄えを競いました。佐々木里央さん（稲垣西小4年）は、「雪だるまに穴をあけて灯ろうにもなるように工夫した。寒かったけど楽しかった」と話していました。

## 郷土かるたに児童が熱戦

稲垣子ども会育成連絡協議会（斉藤明会長）が主催する稲垣郷土かるた大会が1月12日、稲垣体育館で行われ、小学生28人が熱戦を繰り広げました。

かるたは46枚あり、札には「千年も変わり続ける稲垣をずっと見守る一本タモ」など郷土の歴史や文化がうたわれています。児童たちは読み手の声に集中し、上の句が読み上げられると一生懸命、札を探し「はい」と声を上げて札を取っていました。各学年の優勝者は次のとおりです。

〔敬称略〕小見山莉奈（1年）、葛西駿介（2年）、中島谷萌那実（3年）、千田霧歌（4年）、三上桃果（5年）、葛西真愛（6年）

元気に札を取り合う児童たち

冬場の基礎練習に励む生徒たち

## 市ジュニアランニングクラブが走り初め

中学生を中心に陸上競技選手を育成している「つがる市ジュニアランニングクラブ」が1月18日、柏総合体育センターで走り初め練習会を開催し、新年のスタートを切りました。同クラブは、若手陸上選手の強化育成を図り、県民駅伝の選手層の拡大を目的に昨年3月に発足し、年間を通して練習に励んでいます。

この日の練習会には市内の中学生11人に加え、穂波小、瑞穂小の児童33名も参加。スポーツトレーナーの平沢一臣氏（深浦町）の指導のもと、跳躍やサーキットトレーニングなど基礎体力作りに汗を流しました。練習後、市体育協会の成田昭司会長と葛西教育長が生徒たちを激励し、三本締めで飛躍を誓いました。